

県実業団・マスタース対抗駅伝競走大会

新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル

山梨陸上競技協会 山梨県実業団陸上競技連盟

新型コロナウイルス感染防止のため、次のとおり対策を取らせていただきます。状況をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

☆小瀬スポーツ公園陸上競技場（JIT リサイクルインク スタジアム）の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを厳守してください。

☆JAAF 競技会に関わる全ての人（審判員・競技者など）の健康状態の管理体制を整える。

（開催1週間前の体調報告・検温の義務、および終了後2週間の体調管理・検温の義務）

大会1週間前から体調管理チェック表（別紙）を記入し、大会当日、主催者（受付）に提出。

・今後の社会情勢（コロナ感染状況）や災害気象情報によって競技会を中止せざるを得ない場合、前日までにHPに掲載するのでご確認ください。

【1】大会を実施するにあたっての感染症対策のポリシー

- ①3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ②競技者、関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。
- ④感染者が発生した場合の濃厚接触者の特定ができる体制を整備する。

【2】具体的な対策

①大会への移動方法

小瀬スポーツ公園への交通手段については、感染リスクの少ない方法での現地集合。

②各場所の集合形態

「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」の徹底。

③招集の方法

選手の密集を避けるため、スタート地点で本人のみの集合とする。

スタート地点でコールを行い、前列に実業団チーム、後列にマスタースチームで（1~2m）間隔のソーシャルディスタンスにて整列する。

競技者係は出発係と連携し、選手のDNS等を逐一連絡する。

④服装について

審判員は、マスクを全員が着用、フェイスシールド・ビニール手袋・軍手（推奨）。

選手はマスク着用（ウォーミングアップ・ダウン時とコール後から競技時は外してよいが、待機中は着用する）。タオルの共用やペットボトル等の飲み回しは厳禁とする。

⑤観客対応

会場に入場できるのは、競技役員、選手及び報道関係者のみとする。

メインスタンドにて見学できるが、マスク着用でソーシャルディスタンスの徹底を行うこと。

声を出しての応援は禁止とする。

⑥各団体の対策

各団体がシートを施設内に敷く場合は、スペースを広めに取ることと、施設内で密集しないよう間隔を空け

るよう徹底する。大会中、仲間との握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各団体に指導を行う。当日出たゴミについては各団体に責任を持って持ち帰る。

⑦雨天練習場・更衣室の使用について

更衣室は使用禁止とします。

雨天練習場でアップでの使用を禁止とします。また、集団でのアップや練習等も禁止とし、個別に距離を保ってアップ・ダウンを行うこと。

⑧消毒対策

できるだけ各団体、各自で消毒液を持参し、選手が競技場へ来た際と帰る際など、頻繁な消毒を徹底する。玄関・各出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、選手・競技役員の消毒を促す。競技前後の導線を示し、密にならない工夫を施す。競技後手洗い等でのタオルの使い廻しは厳禁とする。選手はスタート前とゴール後に手の消毒を各自の責任で行うこと。

⑨健康チェック・参加要件

本人が大会当日までの JAAF 健康チェック表（陸協 HP にも掲載）を作成し、健康であることを確認。

症状がある場合は大会への参加は自粛する。当日、大会参加前の受付時に健康チェック表を提出すること。

当日の検温欄に記載がない者は、当日備付の体温計を使って測定し、参加の可否を判断する。試合後も健康チェックを 2 週間続け、症状が 4 日以上続いた場合には各選手が責任者（実業団連盟）に連絡する。責任者は山梨陸協に連絡し、その後の指示を仰ぐ。

⑩救急・救護体制について 大会中、救護室に医療関係者が常駐する。医療関係者の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。